

Forest 通信 H29 2

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.336

巻頭 photo **高尾山の生きものたち**

ヤマドリ (キジ科)

この鳥は日本特産種。雄は全長125cmで、体の美しさや長い尾羽などから「ぜひ観察してみたい、撮りたい!」と願う野鳥観察、撮影者が多いのですが、警戒心が強く、出会う事は至難です。

もし見つけても、ヤブからヤブへと走り去ります。この点、同じ仲間のキジはおっとりしています。

この写真は一瞬の幸運で撮れました。ヤマドリには感謝です!



今月の一句

「逃げるなよ カメラで追うの やっとだよ」 (フォレストサポートスタッフ 大作栄一郎)

二美ちゃん 富ちゃんの ~サイカチ (マメ科) ~ 俺の高尾



日影沢キャンプ場へ行く途中の沢沿いにサイカチの木が数本ある。トゲが大きく目立ち、果実のサヤは、いつまでも枝についているのでよくわかる。特に「イロハの森歩道」の起点近くのサイカチの木は、サヤが枝先に沢山ついていて目立つので容易に観察ができる。そして木の下にはサヤが落ちていて、手に取ることが出来る。サヤに入っている種子は、サヤの大きさに比べて意外に小さい。

サイカチは雌雄同株、雄花、雌花、両性花がある。キャンプ場脇の林道を少し奥へ行った道路脇のサイカチの木は、花の時期になると木の下に黄色い花がびっしりと落ちてるのが目につくのだが、果実が着いているところを見たことがない。もしかしたら雄花の木かもしれない。

サイカチは昔、お寺の周りに植えられており坊さんが衣服を洗うときに使用したそうだが、確かにペットボトルの中に入れてよく振ると泡立ってくる。この水で洗ったんだろうと思うと昔が偲ばれる。

この木のサヤ、種子、トゲがすべて薬用になるので有用な木である。そして若葉は山菜としても食べられる。(富)



サイカチのサヤ



サイカチの木



抽出液

平成28年度 森林カレッジⅣ

「森林の恵みと共に～炭焼き、そして森の香り～」

平成29年1月14日（土）に、日影沢第二園地の炭焼小屋において森林カレッジⅣを開催しました。午前中は炭焼き体験です。地面を掘って作った窯の「伏せ焼き」2箇所とドラム缶を利用して作ったドラム缶窯 2 箇所に分かれて作業を体験しました。まずは火入れですが、窯の焚き口から団扇（うちわ）で扇いで熱風を送り込みます。しばらくすると煙突からモクモクと濃い煙が出てきます。そして扇がなくても自然に煙が出ていくようになれば一段落です。あとは煙の温度や状態を確認しながら焚き口の大きさを徐々に小さくしていきます。

午後は東京大学名誉教授の谷田貝光克先生による「森林の恵みと共に～炭焼き、そして森の香り～」と題して講義を行いました。ここでは炭や木酢液の効能や特徴はもちろん「コンクリート社会から木の社会へ」シフトすることにより起こるであろう環境への好影響の数々を知ることが出来ました。



谷田貝先生の講義



修了証書の授与式

谷田貝先生は年間を通して海外出張が多いこともあり、ヨーロッパではシュバルツバルト（ドイツ）のモミ・トウヒの巨木の伐採の様子、アフリカ大陸ではタンザニアの伏せ焼きとマダガスカル島の炭の流通状況、東南アジアではカンボジアのメコンデルタやフィリピンの炭焼きの様子など、まさに地球規模での講義をして頂くことが出来ました。

講義の終了後はブリキ缶を使った花炭焼きを行いました。松ぼっくりなどが形そのままに炭になるので意外に好評なイベントです。そしていよいよ窯閉めを行ってから修了証書の授与式です。

昨年の5月から始まった森林カレッジも今回が最終回となりました。厳冬期の、しかも屋外での授業という過酷な状況の中ではありましたが受講生からは「終わると思うとさびしい・・・」「また同じメンバーで集まりたい」「学ぶことが多かった」「人生の糧になる」など主催者側としては最高の賛辞となる感想を頂くことが出来ました。おそらく今年度の参加者の中からボランティアとしてセンターを支えてくださる貴重な人材が育ってくれることでしょう。

（磯）

出前

森 林 教 室

～八王子市立 城山小学校～

強い寒波が日本列島を襲った1月12日(木)～13日(金)の2日間、東京都八王子市立城山小学校4年生110名が炭焼き体験を行いました。城山小学校は学校敷地の隅に伏せ焼きのできる窯が設置しており、今年もその窯を使い当センター職員の指導で実施しました。

初日は、「楽しみにしていた炭焼き体験！学校にある窯を使って竹炭を作ります！」とセンター所長より挨拶後、職員から伏せ焼きの説明を受け、完全防備服装の児童達は事前に学校で準備しておいた「竹・落ち葉」を炭焼き窯に運んで、竹を窯の中に並べたり、落ち葉を敷き詰めたり、土を盛ったり、火入れ作業を手伝ったりと各クラスの児童達はみんな一生懸命協力し合って積極的に動いていました。特に焚き口から団扇で熱風を送り込む作業では「明日の仕上がりが楽しみだ！」と二人一組で頑張っていました。併せて、花炭作りも体験しました。

午後は校内の視聴覚室で「地球温暖化や森林の働き」等の森林学習を行いました。その後、冷まして

おいた花炭の缶を開封し、中から出てきた「松ぼっくり」等の花炭に児童達は「ワア～すご～い！」などと驚きの声を上げていました。

2日目は、前日に窯で焼いた竹炭を取り出す窯出し作業です。児童や学校の先生、センター職員も不安いっぱいドキドキの窯開きです。落ち葉がいっぱい詰まった窯の中から、子どもたちは順番に竹炭を壊さないように慎重に探し出して、窯の外へ並べていきました。虹色に輝く炭や、残念ながらちょっとよく焼けていなかった竹炭を見付けて、いろいろな感想を子どもたちは述べ合っていました。取り出された竹炭は教室に持ち帰り、子どもたちに配られることになっています。

なお、窯出し終了後は協力して道具の片付けや炭焼き窯の掃除を行いました。

最後に、各クラスの代表から「楽しかった！」などの感想やセンター職員へのお礼をいただき、出前森林教室を無事終了し城山小学校を後にセンターへ帰ってきました。(屋)



完全防備の児童たち！



たくさん届いたよ！

竹を丁寧に並べます

★立派な竹炭です★

花炭が出来た！

クラフト体験 ～南分倍保育園～

1月11日(水)、社会福祉法人府中清心会南分倍保育園の年長さん22名がセンターに訪れクラフト作成を体験しました。

園児は、インタープリターの指導の元にヒマワリのブローチを作成しました。作品は小径木の輪切りにヒマワリの種を貼り付けて、中心に木の実を飾ったブローチでヒマワリの種をきれいに並べる子など可愛いブローチを作成していきました。早く出来上がった子は、積み木や木のおもちゃで遊び始めた子もいました。

展示室で昼食を食べる予定でしたが、天気が良いので高尾599ミュージアムの芝生で昼食をたいらげて元気に帰って行きました。(皿)



年末年始における高尾山パトロール実施（高尾陣馬特別警戒）

関係機関、団体と緊密なる連絡・協議を行い「高尾陣馬特別警戒連絡協議会」の構成員でもある当センター及び東京神奈川森林管理署も参加し、合同で年末年始（22時～7時）の高尾山山頂から小仏城山間の危険防止、犯罪防止、火災防止等のパトロールを実施しました。パトロールでは出会った登山者に山火事防止を呼びかけるとともに、夜道での転倒・滑落等注意を促しました。

また、パトロール巡回中、若者が直にたき火を行っていたため、たき火禁止であること注意し、その場で手持ちのジュース等で消化させるとともに、当職員がジェットシューターにて残火処理を確実に行いました。

東京神奈川森林管理署4名、センター2名、フォレストサポートスタッフ1名の7名で、2人若しくは3人1組で計3回のパトロールを実施しました。お疲れ様でした・・・。（屋）

元旦の富士山



スタッフ一同



初日の出



シモバシラ

高尾森林ふれあい推進センター 森林ふれあい推進事業

春の健康ハイキング ～北高尾の森で春を探そう～

日時：2017年3月14日（火）

場所：JR高尾駅北口 8：15集合（8：34大久保行きバス乗車）

解散：小下沢梅園広場 14：50頃

参加費：1,700円（別途バス代530円）

持ち物：昼食、飲物、帽子、防寒着、雨具、はき慣れたハイキングシューズ、あればループ等
歩行距離約6km、歩行時間約4時間半、標高差約300m

雨天中止（中止の場合は前日19：00までに参加予定者へ連絡）

《申込方法》

A：往復ハガキに①イベント名②参加者全員の氏名（ふりがな）、年齢、性別③代表者の住所、電話番号（自宅・携帯）、あればメールアドレス④このイベントを何でお知りになりましたか？⑤返信面の宛名をご記入の上、締め切り日までに到着するよう下記宛にお申込みください。

申込先：高尾森林ふれあい推進センター「春の健康ハイキング」係（住所は下記を参照）

B：メール fit.fureai@gmail.com

応募締切：2月28日（火）募集人員が30名を超えた場合は抽選とします。

お問い合わせ：森林インストラクター東京会 小勝 眞佐枝（こかつ まさえ）

携帯：090-9131-8384 メール：gingerol2013@gmail.com

編集後記

厳冬期に入ったせいか底冷えの毎日が続いている。森林教室では「地球温暖化」について子どもたちに話す機会が多いのだが、当センターでは秋から冬場にかけて「炭焼き」を行う機会が多い。炭は自然にやさしいエネルギーとして見直されているし、子どもたちに興味を持ってもらうには格好の教材だ。もちろん我らオジサン達が実演するのだが、これが意外と難しい技術なのだ。今後も精進あるのみ！（磯）

Forest 通信 No.336

発行：林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター

【ご意見、ご要望及びイベント情報のお問合せ先】

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1

電話 050-3160-6040 FAX042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>